



写真3 変質安山岩



写真2 斑状安山岩



写真1 素波里安山岩

石の名前「安山岩」はこうして
生まれました

安山岩はマグマが地下から上昇してきて、地表や水中などに入り込み出ました。この岩石の名前に「安」という漢字が使われています。この漢字は「やすらかなこと」や「危険がないこと」などを表しています。したがって、安山岩は危険がない山の石とも解釈されそうです。また、地方によっては安産の守り神として安山岩のかけらをお守り袋に入れて大切に身に付けているところもあると聞いています。

しかし、残念ながら「安山岩」の名前は安全とは全く関係なく名づけられました。

話は外国にとびます。南アメリカ大陸に長大なアンデス山脈があります。このアンデス山脈をつくっている岩石（中生代〜新生代にできた安山岩）を研究していた地質学者はこの岩石に名前をつけることになりました。さて困ったぞ？そうだ、アンデス山脈にあるから山の名前のアン・デを使ってアンデサイトと名付けよう。そのような経過を経て決められた名前です。

日本にもアンデサイトによく似た岩石があり、その石にはまだ正式な名前がありませんでした。そんな時、アンデス山脈についての研究論文が日本にも伝わってきました。その論文を読んだ地質学者は「あの石がアンデサイトなんだ。よし、日本でもこの名前でもぶことにしよう！」と考えました。

ところがアンデサイトをどのような日本語にしたらよいかと考えた時にハタツと困りました。ぴったりとした日本語が思い浮かばなかったらしいので、それでアンデサイトの「アン」に「安」をあてはめ、その後に「山脈」を表す「山」だけをつけてめでたく名称「安山岩」が誕生したと聞いています。

八峰白神ジオパークには4種類の安山岩がみられます

これまで連載してきた八峰白神ジオパーク紹介に「安山岩」「斑状安山岩」「変質安山岩」という岩石名がすでに登場しています。これにまだ登場していない「無斑晶安山岩」を加えると4種類の安山岩がそろい踏みとなります。次回からはこれら4種類の安山岩について詳しく紹介しますが、ここでは簡単に4種類の安山岩の特徴について紹介します。

○素波里安山岩 写真1

灰色で白い結晶（3〜5mmほどの大きさ）が見られ、ややガサツな感じがします。

蝙蝠淵、母谷山、葉師山、糠森、小糠森、雄島などでみられます。

○斑状安山岩 写真2

俗称マンチャナイトとも呼ばれます。すこし茶色っぽい灰色で、大きな白い結晶で長方形や銭型（2〜3cm）をしています。

「涛安の乙女」像の建つ海岸付近、そ

の他真瀬川と小入川に挟まれた山沿いの沢でみられます。

○変質安山岩 写真3

ややチョコレート色っぽい感じの安山岩ですが、場所によっては緑っぽい色をしていることもあります。八森小学校の子どもたちはこの岩に「レインボウロック」と名付けました。非常に小さい白い結晶がたくさん入っています。

「海の二ツ森」海岸で見られます。

○無斑晶安山岩 写真4

全体が真っ黒にみえる安山岩で白い結晶はほとんどありません。わずかに0.1mmほどの白い結晶が点々とみえる場合もあります。

須郷岬海岸で見られます。



写真4 無斑晶安山岩

八峰白神ジオパーク推進協議会

研究専門員 工藤 英美

〒018-2603

秋田県山本郡八峰町八森字三十釜一四四一

ぶなつこランド内

TEL 0185-177-3086